

福祉系大学経営者協議会 令和5年度第2回総会 開催報告

令和6年1月15日(月)、福祉系大学経営者協議会 令和5年度第2回総会をオンラインで開催し、24校43名に出席いただきました。

冒頭、丸山悟会長(学校法人日本福祉大学 理事長)より、令和6年能登半島地震のお見舞いの言葉が述べられ、「福経協としても、大規模災害対応委員会での検討をベースに、被災状況の把握とともに、支援活動に組織的に取り組む必要がある」との考えが示されました。続けて、「本日の総会は、第1部では全国社会福祉協議会副会長の古都様より、『社会福祉協議会・社会福祉法人からみた福祉系大学への期待』と題して講演いただく。第3部の会員校の近況報告で、古都様から寄せられた期待に対し、各大学における学部等の改革や教育充実の方向性について、披歴していただければありがたいと思う」との開会挨拶がなされました。

※「第1部 勉強会」・「第2部 総会」の進行は丸山悟会長、「第3部 会員校の近況報告」の進行は江端源治副会長(関西福祉科学大学 理事長・学園長)が務めました。

■第1部 勉強会■

社会福祉法人全国社会福祉協議会 古都賢一副会長より「社会福祉協議会・社会福祉法人からみた福祉系大学への期待」と題して、講演いただきました。講演では、福祉を取り巻く状況や社会福祉法人関係者から寄せられる声なども踏まえ、福祉系大学への期待についてお話しいただきました。その後、出席者との意見交換を行いました。

■第2部 総会■

令和5年度の活動状況について、5つの委員会(総務・企画/研究活動・教育向上/学生募集戦略検討/大規模災害対応/就職)より報告がなされました。

■第3部 会員校の近況報告■

出席校の近況報告(能登半島地震による被害状況、学生募集、大学改革等)を行いました。能登半島地震に関する支援活動では、コロナ禍で災害ボランティアセンター等、学生の活動が途絶えており、これまでの災害時と比べて動きが滞っているとの報告が複数寄せられました。

最後に、長谷川匡俊副会長(大乘淑徳学園 理事長)より「古都先生のお話では『則を超える』ということが繰り返されていたと思うが、専門職として対象を限定して取り組むという専門性よりも、マルチに機能しなければ働き手の減少に対応できない。と同時に、ソーシャルワークの在り方そのものが、そのように社会課題に切り結んでいけるような方向を見出していかなければならないという風に受け止めた次第である」とのまとめの挨拶がなされました。あわせて、こども家庭ソーシャルワーカーの試験を実施する認定機関について、一般財団法人日本ソーシャルワークセンターに決定したことや今後の見通しについても報告がなされ、閉会しました。